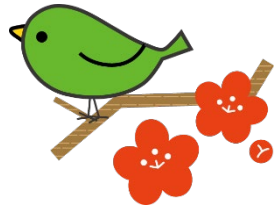




園長だより



今日は言葉の力について考えてみたいと思います。聖書には、「口と舌とを守る者はその魂を守って、悩みにあわせない。」(箴言 21 : 23) とあります。日本のことわざでも、「口は災いの元」と言い、不用意な発言は慎むべきだという戒めがあります。子育てでも、子供に対する言葉は大きな影響を及ぼします。自分に言われてイヤなことは、子供にも言わないということを心掛けたいものですよね。例えば、「何でそんなことしたの?!」「ほら、見てみなさいよ。こんなことになっちゃったじゃないの」「何も学習しないの?」「何でちゃんとできないのかな」「自業自得だね」「本当にいつもできないんだから」などの言葉を自分に言われたら、皆様だったらどのような気持ちになるのでしょうか。うれしい気持ちにはなりませんね。

しかし、このような言葉を子供に使ってしまうことはないでしょうか。代わりに、「一緒に片付けをするのを手伝うよ」と言ったり、子供の気持ちを聞くために、「今どんな気持ちなの?」と問いかけたり、ルールを守れなかったときに、「今度はまもれるように頑張ろうね。ルールを覚えておこうね」というような言葉をかけると子供の反応も変わってくることでしょう。

子どもは、私たちの期待に応答してくれます。これは良い意味でもそうですが、悪い意味でもそうとも言えます。「いつも反抗する」「嘘つきなんだから」「いつも部屋が汚いんだから」「時間にいつも遅れる」「ドジなんだから」「知ったかさんなんだから」「いつもいたずらばかりするんだから」というような言葉を子供や、子供の聴いているところで他の人に言っていたら、子供はその(悪い)期待に応えて、そのような子供になっていきます。これらの言葉は焦点を子供の言動のマイナスの面に当てています。誰も自分の悪いところを指摘されることを好みません。そして、子供がドジであるとか、嘘つきであるとかというレッテルを張っています。さらに、「いつも」という言葉が入っており、子供が常に悪いことをして、良いことをしないかのように表現してしまっています。

「あなたはドジなんだから」という表現を言い直すとしたら、どのように言ったらよいでしょうか。「動きをコントロールするのが大変な時があるから、壊れやすい物がある時は特別に気を付けないといけないね」と言い換えたらよいかもしれません。また、もしネガティブなことを言う時には、ちょうどサンドイッチのように、ポジティブな表現を前後に挟むとよいかもしれません。子供がお手伝いすることを拒否した時に「何でそんなことをするのか?!」と言う代わりに、「いつもは手伝ってくれるよね、感謝しているよ」(ポジティブ)と言ってから、「お手伝いをしたくないって言ったけど、手伝ってほしいんだよね。叱らなくてもいいように、やってくれないかな」(ネガティブ)「手伝ってくれたら、一緒にもっと遊ぶ時間ができるよ」(ポジティブ)という具合です。

聖書には「愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。」(ヤコブ 1 : 19) という言葉がありますが、このような人になりたいですね。

2019年1月31日

石川三育保育園 園長 ミラー・ジョエル